

## 第4章 地区地域福祉活動計画

### 1. 地区地域福祉活動計画とは

長浜市全域の計画とともに、特に各地区での地域福祉活動推進を目的とした計画です。各地区の地域の特性（自治会の状況や人口、取り組んでいる活動等）に合わせたきめ細やかな、地域福祉活動の推進に向けた行動計画です。

### 2. 各地区地域福祉活動計画

解説 Commentary	地区地域福祉活動計画の策定と住民参加
<p>地域福祉活動の推進は、テーマごとに特徴がみられるNPO団体や福祉団体と、各地域における福祉の協議体としての地区社会福祉協議会（福祉の会）が取り組む活動とに大別することができます。</p> <p>長浜市内15の地区社会福祉協議会（福祉の会）が組織され、住民主体の活動に取り組んでいます（地区社協活動については次ページのコラムを参照ください）。</p> <p>地区社協の地域福祉活動計画は、地域のみなさんの話し合いをとおして策定されています。このような計画策定の過程そのものが、住民同士の対話と交流を基礎にした実践活動であり、暮らしの課題解決に向けてともに取り組んでいく方向を構想していくものです。各地区地域福祉活動計画も第2期をむかえ、生活課題の地域性を反映したうえで、住民参加の地域福祉活動の焦点が明らかにされてきています。</p> <div data-bbox="311 1332 1189 1982"><p><b>地区社会福祉協議会活動の意義</b></p><pre>graph TD; A["自治会・町内会（暮しの場） 小地域福祉活動（日常的な交流・見守り・支えあい）"] &lt;--&gt; B["地区社会福祉協議会（福祉の会） 【活動の交流の場】 活動の企画、担い手の育成、情報発信"]; B &lt;--&gt; C["長浜市社会福祉協議会 地域福祉活動・まちづくり活動に寄り添いながら支援"]; D["長浜市市役所 地域福祉活動の基盤整備（拠点整備、専門職の増員・配置） 地域包括ケアシステムの構築"]; E["老人クラブなどの地域の福祉団体"]; F["NPO団体"]; D --&gt; B; E --&gt; B; F --&gt; B;</pre></div> <p>長浜市地域福祉活動計画推進アドバイザー（大谷大学文学部教授）：山下憲昭</p>	

コラム column	地域福祉活動実践の「理」にかなった 地区社協（福祉の会）活動
<p>Q. この計画書には各地区の活動計画概要に大きなスペースを割いていますね。なぜですか？</p>	
<p>A. それはですね、暮らしの場としての小地域（自治会・組・班など）での見守りや励まし、支えあい活動を推進していこうとするとき、地区社協（福祉の会）は、住民さん自らが主体となって企画、実践、課題の社会化（市民や行政への訴えも）していく仕組みや関係として先輩たちが積み重ねてくださった実績が伝えられている場だからですよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● つぎに、住民の暮らしの課題共有の場になりうるということです。課題を共有しないと、みんなで力を合わせてということにはなりませんよね。</li> <li>● 地区社協（福祉の会）は、神照地区や六荘地区、浅井地区などは1万人を大きく超えています。他は数千人規模で、文化や関係性を受け継いできた歴史があります。人口の多い地区は「住縁」を紡いでいくという目標をもっています。小さすぎない・大きすぎない、ちょうど良い関係を築きやすいのが地区社協の単位なんですね。</li> <li>● 地区社協（福祉の会）のちょうど良い範囲で、住民参加の地域福祉活動の交流の場になります。地域福祉やボランティアの活動者の元気の源は、活動者同士の交流にあると思います。「おおっ！あの自治会は熱心だなあ。負けておれないぞ！」とか「困ることは似たようなことですね。一緒に考えましょう」とか。 人は人と交わってこそ、楽しさや元気が湧いてきます。地域福祉活動の交流そのものを自分たちで企画運営するのは楽しいですね。</li> <li>● 地区社協（福祉の会）を舞台にした活動の交流があって、住民意識の啓発・課題提起の活動（社会運動的側面）、暮らしを支えあう活動（事業的側面）が進んでいます。また、活動の企画や担い手の育成、地域住民にむけた情報の発信が広がりをもって取り組まれています。</li> <li>● 地区社協（福祉の会）は、任意の住民組織ですけど、インフォーマルな組織だからこそ動きやすいという側面もあります。長浜市内に限らず、住民主体の活動が広がり定着している地域では、地区社協（福祉の会）活動が住民参加の地域福祉活動の組織的基盤となっています。 基本は、民生委員・児童委員と自治会役員の協力関係にあって、そこに地域福祉のボランティアや「福祉委員」として住民が参加していることが多いですね。 長浜市地域福祉活動計画推進アドバイザー（大谷大学文学部教授）：山下憲昭</li> </ul>	

## 第2期長浜地区福祉活動計画

### 基本理念

### 地域の絆でともに育み支えあい安心して暮らせるまち

#### 第1期計画の振り返り

長浜地区では2016年に長浜地区福祉活動計画を策定し、進捗状況や、今後必要な取り組みについて協議してきました。「地域の絆でともに育み支えあい安心して暮らせるまち」をスローガンに3つの基本目標「住民の安全安心な居場所・いきがづくり」「地域で活動できる仲間づくり」「住民・世代間の意識や情報の共有化としくみづくり」に沿ってさまざまな活動をすすめる中で重点的なポイントが見えてきました。

#### ◆いつまでも安心して暮らせる地域づくりがすすめられています

地域の居場所（サロン活動等）が住民同士のつながりをつくる場となっており、誰かに負担がかかりすぎないような継続した活動が求められています。自治会におけるサロン活動は31自治会（39.2%）・転倒予防教室も41自治会（51.8%での実施）で実施されており、自治会圏域でのふれあいと交流の場になっており、高齢になってもいつまでも地域とつながる居場所づくりといった取り組みの充実が着実に進められていますが、引き続き新規サロン・転倒予防教室の立ち上げと継続した運営を目指した地区での支援が求められています。

また、少子化や子育ての多様化等により、子どもたちが地域の中で学び・遊ぶ機会が減少する中で地域団体や保護者等との関係づくりにもつながる長浜まちなか子ども食堂の活動が始まり、子どもを中心とした地域のつながりづくりの場が取り組まれる等、子育て支援の輪が広がっています。

#### ◆それぞれの自治会に応じて、日ごろの見守り活動への関心が高まっています

長浜地区においては、地域の相談役でもある民生委員・児童委員の役割は大きく、見守り活動の取り組みが広がっています。それぞれの自治会に応じて交流の機会づくりや命のバトンによる自治会を単位とした見守り体制の輪が広がりつつあります。今後さらに自治会、地区圏域でも連携をとれるようなつながりの機会が必要です。また、自治会長、民生委員・児童委員、関係団体との顔つなぎの機会でもある福祉懇談会が各連合自治会で行われており、自治会に応じた福祉課題について考えるきっかけにつながっています。身近な高齢者の総合相談窓口である南長浜地域包括支援センター等福祉関係者と地域の連携による地域づくりが高齢化のすすむ中で今後一層求められています。

## 基本目標

## 基本目標Ⅰ 生きがいにつながる交流と関係づくり

- 地域が顔を合わせて交流できる機会をつくろう
- みんなが参加し、地域の活動を知る機会をつくろう

3世代交流事業や福祉の担い手の育成や支援を目的にいきいき体験講座を実施しています。地域の顔つなぎの場としていきいき健康のつどいや民生委員・児童委員協議会によるお楽しみふれあいサロンが開催されており、身近な地域でのつながりが深まっています。今後も活動への参画と交流によって、活動の活性化とつながりづくりの強化に取り組めます。

- 推進する活動
  - ・ 三世代交流事業「さかなつかみ大会」
  - ・ いきいき体験講座                      ・ いきいき健康のつどい
  - ・ まちなかフェスタ

## 基本目標Ⅱ ②喜樂に集える居場所づくり

- 身近な地域の安心安全な居場所をつくろう
- 困りごとを抱えた人も喜樂に相談できて、つながりあえる居場所にしよう

サロン活動や敬老月間友愛訪問をとおして自治会を中心とした交流の機会づくりやつながりが必要と思われる方への声かけが行われています。ご近所同士の行き来が少なくなってきた今こそ、誰もが集まれる居場所づくりが求められており、今後も継続した住民の社会参加の場として、自治会の居場所づくりのためサロンスタッフの情報交換会を開催し、新たな活動へのきっかけづくりや活動意欲を高めるための支援を行います。

- 推進する活動
  - ・ サロン活動、転倒予防教室の推進                      ・ サロン交流会の開催
  - ・ お楽しみふれあいサロン
  - ・ まちなかカフェ                      ・ 長浜まちなか子ども食堂

### 基本目標Ⅲ お互いさまの見守り活動

- 日ごろから緊急時にも対応できる見守り活動の充実
- 見守り活動について理解を深めよう

地域見守り推進事業（緊急情報カード）をとおして日ごろからの見守り必要な方の把握、見守り活動を行っています。また、地域福祉の相互理解と緊急時情報カードやふれあいサロン等についての理解と各自治会へ広げるため、各連合自治会で研修会等を実施します。住民同士の見守り活動や「助けられたり助けたり（お互い様の精神）」を大切に、住民相互の見守り活動に取り組みます。

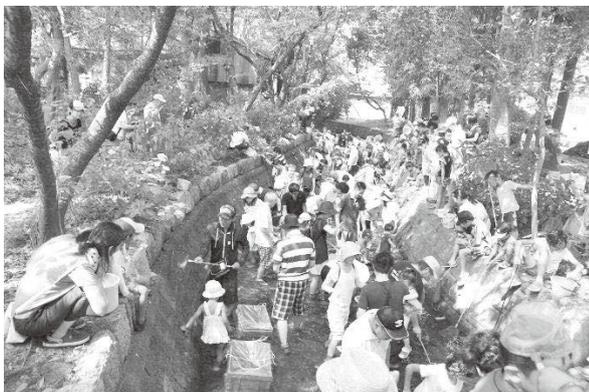
- 推進する活動
  - ・地域見守り推進事業（緊急情報カード）
  - ・敬老友愛訪問
  - ・連合自治会福祉懇談会
  - ・小地域福祉講座

### 基本目標Ⅳ 地域福祉活動の基盤づくり

- 自治会長、民生委員・児童委員、南長浜地域包括支援センター、関係団体との意見交換の場づくり
- 地域の人みんなにわかりやすい情報を伝えよう

基本目標①～③の活動の充実、発展を目的とした各種団体等との状況共有やネットワーク化をすすめます。また、毎年度の振り返りと発展をもって計画の充実を目指します。

- 推進する活動
  - ・福祉懇談会の開催
  - ・広報啓発事業



## 第2期六荘地区福祉活動計画

### 基本理念

### ふれあいと支えあいで育む六荘

### 第1期計画の振り返り

六荘地区においては、「六荘地区住民福祉活動計画」を2015年に策定し、地区の特性に合わせたきめ細やかな地域福祉活動を推進してきました。

新しい若い世帯の増加により六荘地区としての高齢化率は低いですが(20.5%)、自治会によっては高齢化率が非常に高いところもあり地域格差が一層顕著になってきています。また、新しい世代の台頭により近隣同士のつながりが薄く、交流の機会が少ないことから支えあいや見守りに対する意識が低い地域が多く、地域課題があっても表に出づらい地区でもあります。

また、買い物、医療、公共機関、福祉施設等が多数存在し、生活環境は恵まれているが、一方でだんだんと迫りくる高齢化に備えた予防意識、健康意識が低く特定健康診断の受診率が低い地区でもあります。

今後少子高齢化の傾向が進む中、つながりの場や見守り活動のひとつとなる居場所づくりをさらに充実させるため、サロン活動推進を目標とし、特に高齢化・独居化が進む自治会へのサロンの啓発活動の実施と市社協の補助の補完的支援の実施を目指し、また、自治会単位の枠を超えた見守り活動をとおして、子どもの支援、要配慮者等への対応ができる組織づくりへの支援活動を検討していきます。また、高齢化に伴う認知症予備軍の増加に対応すべく、認知症への対応、正しい理解の取り組み等の研修会を開催していきます。

このような旧知の世代と若い世代が混在している地域現状から、相互の強み・弱みを補完し地域ニーズに応える活動展開が望まれています。

## 基本目標

## 基本目標Ⅰ ふれあいが結ぶ住みよい地域づくり

少子高齢化の傾向が進む中、居場所づくりをさらに充実させるため、サロン活動推進を目標とします。

## ■推進する活動

- ・高齢者の居場所づくり  
ひとり暮らし高齢者ふれあい会  
ひとり暮らしの高齢者が集い食事会や芸能鑑賞の機会をつくります。  
サロン活動への支援  
自治会での新規「サロン」導入へのサポートと実施自治会への継続的支援を行い、サロン支援者同士の情報交換の場を開催します。
- ・「敬老の日」訪問活動  
88歳お祝い訪問（自治会経由）、最高齢者へのお祝い訪問。
- ・地域交流機会の支援  
「地域フェスティバル」等地域交流への共催・支援

## 基本目標Ⅱ 健やかな成長と交流ができる地域づくり

健やかに成長することができる環境作りを他団体と協働して実施します。

## ■推進する活動

- ・重度しょうがい児・者 家族支援  
訪問支援により見守りの強化と地域の絆の醸成を図ります。
- ・子育て支援  
新生児家庭訪問支援により見守りの強化と地域との絆を図っていきます。  
子育てサロンへの支援検討（図書等寄贈）子ども食堂への支援検討
- ・三世代の交流事業  
獅子舞公演を通じた世代間の交流継続  
ニュースポーツ（スリーアイズ）六荘版の普及促進により三世代交流事業として根ざしていきます。
- ・健康づくり事業支援  
健康ウォーク&ノルディックウォークの普及促進と「きゃんせ体操」教室への支援。健康診断&特定健診の受診率の向上のための広報活動。

## 基本目標Ⅲ つながりを深め成長しあう仲間づくり

各種福祉団体への活動支援の強化と連携及び情報を共有化します。

## ■推進する活動

- ・各種福祉団体への活動支援  
地域日赤奉仕団、健康推進委員、更生保護女性会等への支援、地区老人会による地域福祉への参画支援の検討。福祉関係者との情報共有をします。
- ・サロン活動支援者への後方支援  
サロンスタッフ交流会・講習会
- ・地域福祉の担い手となる新たなボランティア制度導入検討  
見守り活動の一環として、民生委員・児童委員の補助的役割の位置付で自治会単位での福祉協力委員（福祉委員）の導入の検討

## 基本目標Ⅳ お互い様でつながる仲間づくり

予備知識と認知症者への対応等の研修会を開催と要配慮者への取り組みについて日頃から自治会で話し合う場を支援する取り組みを行います。

## ■推進する活動

- ・六荘地区の地域課題の研修と視察  
地域福祉研修会・先進地視察と自治会に向けて「認知症」理解への取り組み
- ・「認知症」研修への支援  
今後、避けて通れない「認知症」への関心を高めるため自治会へ働きかけ。

## 基本目標Ⅴ 一体となって活動できる仕組みづくり

まちづくりに関わる様々な団体と地域福祉への取り組みを協働していきます。

## ■推進する活動

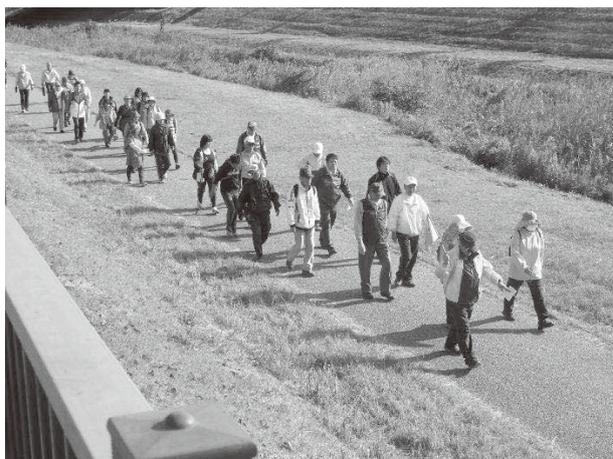
- ・各種団体と連携した地域福祉への取り組み強化と広報活動の深度化  
青少年健全育成・子ども会主催の「六荘こどもまつり（仮称）」へ子育て支援の一環として後援を検討  
自治会、民生委員・児童委員、各種団体、地域包括支援センターとの地域課題を話し合える関係づくりと懇談会の開催  
広報紙を充実し地域福祉への関心度の向上
- ・事業所福祉募金の継続  
訪問募金の実施と地域福祉への理解に努める。

## 基本目標VI 安心と安らぎのある仕組みづくり

単位自治会の枠を超えた見守り活動を通して、子どもの支援、要配慮者等への対応ができる組織づくりへの支援活動ができるか検討。

### ■推進する活動

- ・「命のバトン」導入事業の拡大継続  
自治会へのフォローアップ、災害時の有効性、見守り活動への利用促進  
高齢化率の高い自治会への導入促進
- ・自治会の防災と要支援者への取組への支援  
自治会と連携して、防災福祉研修会開催、福祉マップ（出前講座）の周知  
要支援者の把握と避難支援への取り組み方の研修  
福祉の面から防災への取り組みに若年層の参加を誘導
- ・一体となった「見守り支えあい」の仕組みづくりへの支援  
地域ごとの要配慮者に対する見守り活動への検討会提案  
サロン等を通じた情報の収集と対応への助言



## 第2期南郷里地区福祉活動計画

### 基本理念

### いつまでも住み続けたいなるまち 南郷里

### 第1期計画の振り返り

先の第1期南郷里地区福祉活動計画（平成28年2月策定の3カ年計画）では、「住み良いね！絆で築く南郷里」を基本理念に掲げ、「安全で、安心して暮らせる地域」、「人と人がつながりのある地域」、「地域を愛し、住み続けたいと思える地域」を基本目標として、地域福祉の推進に取り組んできました。

旧集落と新興住宅地が混在している地域ですが、多くの自治会で高齢化が進み、近隣住民同士のつながりがだんだんと薄くなりつつあるなか、命のバトン事業に取り組むことで、全自治会が地域や見守り活動について考え、地域のみんなで見守る仕組みづくりにつながりました。地域住民が集う居場所づくりとして、サロン活動や転倒予防教室などが各地で実施され、住民が参加することで、住民同士の気楽な関係づくりができ、誰もが安心して暮らせるまちづくりが推進されました。

しかしながら、様々な地域福祉活動が取り組まれる中で、また自治会と各種団体関係者を交えた懇談会を通じて、支えあい活動の担い手不足、買い物や通院などの移動手段に関する困りごと、自治会と福祉委員、民生委員・児童委員との連携不足といった課題などが見えてきました。

### 基本目標

福祉と暮らしの利便性のまちづくり

基本方針1 見守り支えあい

南郷里地区は、地区全体の高齢化率をみると低いですが、自治会によっては高齢化率が高いところもあり、ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯が増加しています。「近くに息子や娘が暮らしていないため、困ったとき頼る人がいない」、「自動車運転免許を返納したのはいいが、通院や買い物に行く手段がなく困っている」など暮らしの不安が聞こえています。

南郷里地区では、暮らしの不安を解消するため、全自治会に福祉委員を設置し、友愛訪問や命のバトンの設置などに取り組んでいます。また、子どもたちの安全安心を見守るために、こども110番の家、あいさつ運動やスクールガードなどに取り組んでいます。

一番重要なことは、近隣に日常的に見守ってくれる人や困ったときに頼りにできる人がいることです。地域の人が見守りをするすることで、地域の大人と子どもの交流になり、子どもだけでなく、その保護者の世代にとっても知った顔が増えることで、地域住民み

んなが安心して暮らすことができます。

自治会、福祉委員、民生委員・児童委員が連携して、子ども、ひとり暮らし高齢者、しょうがいのある方など支援を必要とする人をはじめ、地域住民みんながお互いに見守り支えあえる南郷里を目指します。

- 福祉委員活動の充実
- 命のバトン事業
- 友愛訪問活動
- 生活支援活動（移動支援等）
- あいさつ運動
- 子ども見守り活動（こども110番の家事業、スクールガード活動等）
- 交通安全教室
- 避難支援見守り支え合い
- 自治会福祉部または福祉委員会設置による福祉課題の共有と仕組みづくり
- しょうがい者の理解を深める取り組み
- 認知症の理解を深める取り組み

## 福祉と暮らしの利便性のまちづくり

### 基本方針2 居場所づくり

体力の衰えや生活意欲の減退から、自宅に閉じこもったり一人で過ごす時間が増えていったりすることで、さらに筋力低下や認知力の低下をまねき、いざというときに頼る人がいないなどの不安や悩みを募らせたりする人がいます。

南郷里地区では、高齢者を対象とした自治会単位のサロン活動（注8）や介護予防を目的とした転倒予防教室に取り組み、地域住民同士のつながりづくりを進めています。

子育て世代においても、地域のつながりがないことで、不安や悩みを相談できずに困っておられる方がいます。南郷里地区では、自治会単位の子育てサロンや地区単位の子育てサロン「はぐみんぐ」、子ども学び座等に取り組んでいます。これらの活動は、保護者にとっては、子育てに関する悩みを共有したり、リフレッシュできる場になり、子どもにとっては、遊びを通して他者とのふれあいなどさまざまなことを学べる居場所になっています。

子どもから高齢者まですべての住民が、身近にある自治会館やまちづくりセンターなどに集まり、世代を超えて交流することで、孤立せず、安心して暮らせる地域の実現につながることから、自治会や南郷里地区での居場所づくりの推進を目指します。

- 子どもと高齢者との交流
- サロン活動
- 転倒予防教室
- 子育て広場「はぐみんぐ」
- まなびの広場
- 通学合宿
- 子ども食堂

- 子ども学び座
- しょうがい者との交流事業
- 認知症の方とその家族の地域の居場所づくり

## 福祉と暮らしの利便性のまちづくり

### 基本方針3 活動を支える

南郷里地区では、自治会や地区での見守り活動、居場所づくり、各種団体によるボランティア活動などの地域福祉活動に取り組んでいます。そして、福祉施設や地域包括支援センター、保健師、社協等の福祉の専門職、各団体同士が地域の福祉課題を共有し、互いの活動を活かす仕組みをつくり、連携・協働して活動することにより、さらなる地域福祉活動の充実と広がりを目指します。

地域福祉活動の推進は、福祉の専門職のみならず、福祉の担い手となる地域住民に対する啓発や普及が不可欠であることから、現在取り組んでいる南郷里ニュース等による情報発信や団体における会合、地域づくり推進大会等の各種イベント等を通じて、福祉に関わる学習や体験の場づくりに取り組むことで、地域住民の福祉への関心を高め、担い手を育成しながら地域住民による地域住民のための福祉活動の展開を進めていきます。

- 各種団体との交流
- 福祉施設との連携
- 地域住民の福祉や健康等に関する理解と関心を深める情報発信
- 地域福祉の担い手の育成
- 福祉専門職との連携



## 第2期神照地区地域福祉活動計画

### 基本理念

### あたたかな つながりが 活きるまち 神照

### 第1期計画の振り返り

神照地区では2016年に神照地区地域福祉活動計画を策定し、進捗状況や、課題、今後必要な取り組みについて協議してきました。あたたかなつながりが活きるまち神照をスローガンに3つの基本目標「つながりとふれあいでホッとできる地域づくり」「やりがいをもって活動し、つながりあえる人づくり」「あたたかなつながりで連携をすすめるしくみづくり」に沿ってさまざまな活動をすすめる中で重点的なポイントが見えてきました。

◆住民活動の見守りの中で子どもの健やかな成長といつまでも安心して暮らせる地域づくりがすすめられています

少子化や子育ての多様化等により、子どもたちが地域の中で学び・遊ぶ機会が減少する中で地域団体や保護者等との関係づくりにもつながる「ほっぺの広場、まゆの広場」活動が進められています。また、神照子ども広場等子どもを中心とした地域のつながりづくりの場について取り組まれる等、子育て支援の輪が広がっています。

◆住民の主体的な活動により、日ごろの見守り活動への関心が高まっています

高齢者等を対象とした「サロン活動」に取り組んでいる自治会が25自治会（神照地区37自治会）となり、67%の自治会に活動が広がりを見せています。自治会圏域でのふれあいと交流の場になっており、高齢になってもいつまでも地域とつながる居場所づくりの取り組みの充実が着実に進められています。

引き続き新規サロンの立ち上げと継続した運営を目指した取り組みが求められています。

神照地区においては、地域福祉の担い手である福祉委員の役割は大きくサロン活動や見守り活動の取り組みが広がりつつあります。今後さらに、自治会長を中心とした連携の充実が求められており、自治会、民生委員・児童委員、福祉委員、見守り支援者等による見守り会議を推進します。それぞれの自治会に応じて交流の機会づくりや命のバトンによる自治会を単位とした見守り体制の輪が広がっています。

## 基本目標

## 基本目標Ⅰ 人と人とのつながりを広める 交流と関係づくり

- 健やかな成長と生活を応援します
- いつまでも安心して暮らせる地域社会を目指します

いつまでも安心して地域で暮らせる地域を目指して、地域の相談役である民生委員・児童委員との連携による歳末友愛訪問、ひとり暮らし高齢者のお楽しみ会や園児と高齢者のお楽しみ会、子育て支援事業を開催します。

また、みんなが暮らしやすい地域について考えるきっかけとして各種団体との連携による人権と福祉のつどいを開催します。

- 推進する活動
  - ・ 子育て支援事業
  - ・ 歳末友愛訪問、特別支援学級友愛訪問
  - ・ ひとり暮らし高齢者お楽しみ会、園児とのふれあい交流会
  - ・ 人権と福祉のつどい

## 基本目標Ⅱ つながりを深め、自分の気持ちが出せる居場所づくり

- 「あの人に会える」ホッとする居場所をつくります
- やりがいをもって活動できる仲間づくりを応援します。

ご近所でもあいさつや井戸端会議がなくなる等、つながりが少なくなり、さまざまな事情で孤立しやすくなっています。そのため、歩いていける身近な範囲での「居場所」は、社会的な孤立を防ぐという大きな意義があります。顔と顔を合わせる中で育まれる信頼感から地域で暮らして良かったと思える安心感のある居場所づくりを目指します。

また、研修会や交流会をとおして、サロンスタッフの情報交換会を開催し、新たな活動へのきっかけづくりや活動意欲を高めるための支援の他、活動基盤の安定化を図る支援をします。

また、子どもたちが地域の中で学び・遊ぶ機会をとおした世代を越えた交流をとおして、地域への愛着、つながりを育みます。

- 推進する活動
  - ・ サロン活動の推進、サロン交流会、
  - ・ ほっぺの広場、まゆの広場、かみてるこども広場、認知症カフェ
  - ・ 神ゆうくらぶ

### 基本目標Ⅲ 互いのつながりで支える見守り活動

- 隣近所のつながりで気にかかる人を見守ります
- 地域で見守り支えあうしくみを推進します

暮らしの場であるご近所で孤立を防止し、「近隣のつながりの中から暮らしの課題を抱えている人に早期に気づき、支え合いにつなぐ仕組み」が求められています。神照地区社会福祉協議会では、自治会における見守り活動を支える人材育成（福祉委員）を目的に、研修会を企画、開催します。あわせて、自治会、民生委員・児童委員、福祉委員、見守り支援者が連携することで、自治会の見守り活動の充実を目的とした「見守り会議」の実施を支援します。

また、長浜市の制度である避難支援・見守り支え合い制度と連動した「命のバトン」の運用をすることで、自治会における見守り支援者が連携し、見守りが必要な人の把握にもつなげていきます。

- 推進する活動
  - ・隣近所のちょっと見守り、気軽な声掛け
  - ・自治会長、民児協、福祉委員による意見交換会
  - ・福祉委員研修会
  - ・見守りネットワークの推進
  - ・命のバトンの推進

#### 活動を支えるための3つの基盤

- 健やかな成長と生活を支援し、安心・安全な地域づくりを目指します。
- 地域の情報を共有し、互いの活動がつながり支え合う人づくりを目指します。
- 地域づくり協議会、自治会、地区社協、民児協、福祉委員、各種団体が連携、協力できるしくみづくりを目指します。

基本目標Ⅰ～Ⅲの活動の充実、発展を目的とした各種団体等との状況共有やネットワーク化をすすめます。また、毎年度の振り返りと発展をもって計画の充実を目指します。



## 第2期北郷里地区福祉活動計画

### 基本理念

### 福祉(しあわせ)のまちづくり

#### 第1期計画の振り返り

北郷里地区では2016年に北郷里地区地域福祉活動計画を策定し、進捗状況や、今後必要な取り組みについて協議してきました。「福祉(しあわせ)のまちづくり」をスローガンに3つの基本目標「健康でいきいきと暮らせる地域づくり」「いつまでも健やかに育みあえる人づくり」「福祉(しあわせ)でつなぐ住みよいくみづくり」に沿ってさまざまな活動をすすめる中で重点的なポイントが見えてきました。

#### ◆住民が交流する場が盛んに開催されています

それぞれの自治会において、気軽に寄れる居場所(サロン活動)や健康づくりなどの趣味活動(転倒予防教室等)が盛んに開催され、住民のつながりをつくる大切な機会となっています。サロン活動は10自治会(100%)・転倒予防教室も5自治会(50%での実施)と高い割合で実施されており、高齢になってもいつまでも健康で住み慣れた地域で生活し続けていけるような取り組みの充実が着実に進められています。また、交流する場の提供等子育て世代への積極的な支援も実施されており、イベントをとおして三世代がつながる機会づくりも行われ、地域ぐるみでの子育て支援の輪が広がっています。

#### ◆住民同士で困り事を解決する場など、みんなで支えあう仕組みがあります

まちづくりセンターや各自治会館等歩いて気軽に行ける所で、しあわせ情報提供所「よっといで」を開催し、住民同士で疑問や不安を解決したり情報を共有する等支え合う仕組みの充実が図られました。また、積極的に各町サロンに出張し開催することで、住民への周知も勧められました。地域包括支援センター等の専門機関とよりきめ細やかに連携し、出てきた相談事に包括的に対応する体制づくりの強化が求められます。

## 基本目標

## 基本目標Ⅰ 住民みんながつながる北郷里

- 子どもから高齢者までつながりあえる地域づくり
- みんながほっと、気軽に集える居場所づくり

住民を対象とした暮らしの情報提供の場やサロンが全自治会で開催される等、住民主体の居場所づくり・交流活動が積極的に推進されています。また、各自治会で実施されている転倒予防教室やラジオ体操等、健康づくりに対する意識も向上しています。いつまでも健康で、はつらつと暮らせる地域を目指し、以下の活動に取り組みます。

## ■ 推進する活動

- ・ 子育て支援「すくすく広場」
- ・ 各町サロン、転倒予防教室の支援
- ・ ラジオ体操
- ・ 生きがいづくり支援
- ・ 3世代交流事業
- ・ しあわせ情報提供所「よっといで」
- ・ 北郷里体操クラブたんぽぽ会
- ・ 子どもの居場所づくり支援

## 基本目標Ⅱ 住民みんなが支えあう北郷里

- みんなが見守り・支え合う地域づくり
- 誰でも「困っている」「助けて」を言える地域づくり

多発する大きな災害による被害の状態を目の当たりにし、地域の住民同士のつながりや絆づくりの大切さを、改めて感じるようになった近年。特に、ご高齢の方や身体が不自由な方の避難支援や安全の確保のためには、身近な人が声を掛けあい、協力して行動する「支え合いの体制づくり」が大変重要であり、命のバトンや「しあわせ情報提供所よっといで」等相談支援機能のさらなる充実を図ります。

## ■ 推進する活動

- ・ 命のバトン事業
- ・ 子どもや高齢者の見守り
- ・ しあわせ情報提供所「よっといで」の開催継続、連携体制の強化
- ・ 各町サロン活動

## 基本目標Ⅲ 北郷里の福祉活動を支える活動

### ■地域福祉活動を支える活動

第1期北郷里活動計画策定以降、定期的に福祉懇談会を開催し、地域の様々な活動団体を交えて“北郷里のふくし”について話し合い、北郷里地区社会福祉協議会の活動基盤の強化を図ってきました。しかし、地域福祉活動の新たな担い手の発掘や専門機関とのさらなる連携等、取り組むべき課題も見えてきました。地域福祉活動を支える活動の充実を図るため、以下の項目に取り組みます。

### ■推進する活動

- ・北郷里フェスティバル  
（地域包括支援センター、長浜市健康推進課等との連携）
- ・福祉講演会の開催
- ・新たな活動の担い手の発掘と育成
- ・活動の周知広報活動
- ・福祉懇談会の開催



## 第2期西黒田地区福祉活動計画

### 基本理念

**笑顔がつながるまちづくり～あいさつが心に響く、金太郎の里を目指して～**

### 第1期計画の振り返り

西黒田地区では2015年度に西黒田地区福祉活動計画を策定し、「若者が住みたい地域づくり」「高齢者、子どもが安心して暮らせる地域づくり」「西黒田地区の特色を活かした地域づくり」を基本目標にして地域福祉活動に取り組んできました。

第2期西黒田地区地域福祉活動計画では今まで行ってきた活動を継続しながら、見守り活動の拡充、居場所と交流の場づくり、住民が地域に参画できる仕組みづくりに重点を置きながら地域福祉活動の推進に取り組めます。

◆様々な取り組みや事業をとおして地域の支えあい活動の関心が高まっています

西黒田地区で取り組んでいる「福祉の日」「南ふれあいサロン」の事業をとおして住民から「子どもから高齢者までがふれあえる地域にしたい」「高齢になったとき見守り活動支えあい活動が充実している地域だと安心できる」「サロンや転倒予防教に参加することが楽しい」といった声があがっています。

西黒田地区ではいつまでも安心して暮らせるまちにするため自治会内の見守り活動の拡充と担い手の育成、サロンや転倒予防教室などをとおした身近な居場所の推進を行います。

◆住民と専門職が連携し、個別課題や地域課題を解決する取り組みをすすめます

西黒田地区では認知症が要介護認定の原因として多いのが特徴であり、症状が進行してから地域包括支援センターに相談する人が多くおられます。物忘れや理解、判断能力の低下など認知症初期段階の症状を家族や地域住民が気付き、地域包括支援センターに相談することで住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らし続けることが出来ます。住民と専門職が連携することにより、病気の症状や介護予防の知識、福祉サービスを早期に提供することで個別課題の解決につながります。また、地域課題として受け止めることで自治会域、地区域において住民の暮らしの困りごとの解決に向けた検討の場を設けることでいつまでも安心して暮らせるまちづくりを目指します。



## 基本目標

### 基本目標Ⅰ 支えあい安心して暮らせる地域づくり

- 「西黒田きんたろうサポート会」の活動を支援し、生活に困りごとを抱える人たちの支援に取り組みます
- 見守り活動を推進します
- 様々な困りごとを共有し、解決に向けて話し合える「暮らしの支えあい検討会（仮）」を地区で開催します

2015年に結成された「西黒田きんたろうサポート会」が中心となって、買い物支援（商業施設への送迎、付添など）や除草作業、除雪作業など生活支援活動に取り組まれています。暮らしの困りごとが複雑多様化する中、住民同士による助けあい、支えあい活動は、今後、増々必要性が高まってくることが予想される中、活動の継続と更なる発展を目指した取り組みを推進します。

自治会域を中心に、災害時などの緊急時も想定した日ごろの見守り活動を推進し、安心して暮らせる地域づくりに取り組みます。

また、私たちの近くで活動している福祉・保健・医療の専門職（地域包括支援センター、保健師、介護サービス事業所など）が病気や疾患などに関する情報や福祉サービスでの改善方法を提供することで、住民自身の日常生活の困りごとの早期解決にもなります。専門職と住民が連携し、自治会域、地区域において住民の暮らしの困りごとの解決を目指した検討の場を設けることで、様々なカタチで実践される支えあい活動の推進を図ります。

#### ■ 推進する活動

- ・ 西黒田きんたろうサポート会の周知啓発、活動支援
- ・ 西黒田きんたろうサポート会会員（生活支援活動者）の養成を目的とした研修会
- ・ 命のバトン事業、防災福祉マップ
- ・ 福祉委員制度の拡充
- ・ 自治会単位の見守り活動の推進
- ・ 暮らしの支えあい検討会の開催

### 基本目標Ⅱ 子どもから高齢者までつながりあえる関係づくり

- いつまでも輝ける老後のために、地域の居場所づくりを推進します
- 将来を担う子どもたちの健全育成を推進します
- 誰もが交流できる場づくりを推進します

高齢になっても住民同士が交流できるサロン活動が全自治会で開催しており、地域の身近な居場所として重要な役割をもっています。転倒予防教室では、健康維持増進や仲間と一緒に運動することが生きがいにもなり、住民の関心が高まっているところです。

また、子どものときから地元にあこがれを持ち、安心して健やかに成長できる地域を目指し、子ども会事業、金太郎相撲大会など子どもと地域が関わりあえる様々な活動も推進されています。

このような子どもから高齢者まで幅広い世代が地域とつながりあえる関係づくりは、人間関係の希薄化が進む社会の中で、お互いの顔が見えることで安心して暮らせるまちになり住民同士のつながりも構築されます。今後も幅広い世代に応じた地域の居場所づくりの拡充を図り、また、新たな居場所として、多くの住民が集う交流の場づくりを推進します。

#### ■推進する活動

- ・サロン活動、転倒予防教室の実施推進
- ・サロン交流会
- ・サロン助成金支援
- ・子ども会事業
- ・金太郎相撲大会
- ・福祉の日
- ・スクールガード、愛のパトロール
- ・金太郎子ども夢基金による子どもを支援する団体への運営支援
- ・ポールウォーキング教室や落語会など誰もが交流できる居場所づくり

### 基本目標Ⅲ 西黒田の特色を活かした地域づくり

#### ■各種団体、福祉施設、学校と連携し、地域福祉活動を推進します

#### ■住民みんなが住み続けたい福祉のまち西黒田を推進します

高齢者支援、子どもの育成支援、地域の支えあい活動などの地域福祉の取り組みを地区内の各種団体やボランティア団体、福祉施設、学校などが連携を取りあい実施されています。

このような地域福祉活動の原動力は、西黒田地区には人情豊かで思いやる人が多く人と人とのつながりが深いことと、まちづくりに熱心な地域であることから幅広い世代で地域社会に参画できる基盤が構築されているからです。今後もいつまでも住み続けたい福祉のまちづくりを目指し、様々な団体が連携しながら、西黒田の特色を活かした地域づくりを進めます。

#### ■推進する活動

- ・西黒田ふるさと振興会議とボランティア団体の連携強化
- ・幼稚園、小・中学校、高校との連携
- ・福祉施設の地域ふれあい事業に参画、協力
- ・広報啓発活動
- ・次世代の人材育成

## 第2期神田地区福祉活動計画

### 基本理念

**気楽につながるまち かんた**

### 第1期計画の振り返り

神田地区では2016年に「みんなでつくるこれからのかんたプラン」を策定し、“気楽につながるまち かんた”をスローガンとし、基本目標に「神田で暮らしていてよかった！と思える地域づくり」「気楽に“おたがいさま”で助けあえる人づくり」「住民みんなが安心して暮らせる仕組みづくり」沿って、子どもから高齢者まで、様々な世代の地域福祉に関する取り組みを進めてきました。

少子高齢化、人口減少、地域のつながりの希薄化が進む中で、誰もが住み慣れたまちで安心して暮らしていくには、地域住民、各福祉関係団体、介護サービス事業所等による地域の支えあいの力の必要性が高くなっています。

第1期計画で推進されてきた地域福祉活動を、第2期計画ではさらに充実させ、様々な年代を巻き込んだ居場所と交流の場づくり、いざという時に備えた日ごろからの見守り活動、生活上の困りごとなどを住民同士で支えあえる活動や解決できる仕組みづくり、また、このような地域福祉活動を住民と専門職が連携することを目標として設定し、より一層きめ細かな福祉活動の推進に取り組みます。

## 基本目標

## 基本目標Ⅰ 居場所交流の場から気楽な関係をつくろう

- 健康で生き生きとした活動に取り組もう！
- ふれあいと支えあいのある地域にしよう！
- 子どものときから地域に慣れ親しんだ地域にしよう！
- 社会参加をして、生きがいをつくろう！

子どもから高齢者まで町民全体で参加できる行事が多く、まちづくりセンターを中心としてサークル活動、体操教室、ウォーキングなど多くの活動があります。自治会単位のサロンも多くの自治会で開催されています。

居場所や交流の場は孤立を防ぐ役割やレクリエーションやおしゃべりなどを行うことによって健康維持増進にもなり、また、地域の人に会う機会が増え、同世代以外の人と交流することで地域のつながりのネットワークも構築されます。

このような身近な地域の居場所づくりは人間関係の希薄化が進む社会の中で、人々をつなぎ、お互いに顔が見える関係がつくられ、地域住民がいつまでも安心して暮らせる地域であるために今後も重要となります。今後は趣味特技を活かすことによって、仲間づくりと役割・出番づくりができる新たな居場所づくりをさらに推進し、地域の活動者の育成に取り組みます。

## ■推進する活動

- ・神田フレンズ（転倒予防教室）
- ・健康づくり教室
- ・高齢者交友「ふれあいサロン」
- ・ふれあいサロンスタッフの交流会や情報交換会
- ・神田ふれあい盆踊り
- ・神田地区町民運動会
- ・町民親善ボーリング大会
- ・趣味特技を活かした、仲間づくり・出番づくり・役割づくり

## 基本目標Ⅱ いざという時に備えた日ごろからの見守り活動

- 日ごろからの見守りで安心して暮らせる地域をつくろう！
- 地域で見守りあえる仕組みをつくろう！

見守り活動には、あいさつやおしゃべり、ポストや郵便、電灯の様子から本人に会わずとも安否確認ができるちょっとした見守り活動など「普段からの気楽なご近所づきあいがお互いに支えあう基盤」になります。

地域の中で見守りが必要な人（ひとり暮らし高齢者や日中独居高齢者など）の日常の中で抱えている困りごとを住民同士で早期発見し、関係機関につなぐことがいざという

時には重要となってきます。

長浜市避難支援・見守り支えあい制度と連携した「命のバトン」を活用した見守り活動を推進するとともに、住民の見守り活動の意識向上に向けた研修会を実施することで、住民同士の見守り活動の充実を図ります。また、自治会と連携することによって福祉委員の育成をすすめます。

■推進する活動

- ・在宅福祉夏季、冬季友愛訪問
- ・「命のバトン」を活用した見守り活動の推進
- ・登下校でのスクールガード、あいさつ運動
- ・防災福祉マップの取り組み
- ・地区福祉研修会の実施
- ・自治会と福祉委員も巻き込んだ見守り活動の推進

基本目標Ⅲ お互いに支えあえる地域づくり

■ちょっとした困りごとを住民同士で助けあえる活動をしよう！

■専門職と住民が連携し、安心して暮らせる仕組みをつくろう！

■近隣施設との連携を深めよう！

加齢や病気などによって買い物や家屋の修繕など日常生活に必要な事柄が困難になったときは、住民同士のお互いに支えあう活動が重要となっています。

神田地区では、地域住民でちょっとした困りごとを解決する、かんだサポート会による家事支援（買い物・除草作業など）や地域の子どもたちが食事や遊びをとおして、地域の中で安心して育つことができる子ども食堂など、いつまでも安心して暮らせる支えあい活動が推進されています。

今後も地域の困りごとを住民の身近な生活圏域で解決する取り組みの推進と、地域課題を地域住民、専門職が連携し、解決に向けて話し合える場づくりを進めるとともに、地域の困りごとを素早く解決できるよう対応するための「福祉支援体制の定着」が求められています。

■推進する活動

- ・かんだサポート会による日常生活支援、買い物支援
- ・神田地区福祉支援体制の定着
- ・介護や認知症のことが気楽に相談できるつながりづくり
- ・暮らしの支えあい検討会
- ・子ども食堂の協力
- ・施設と地域が関わるができるつながりづくり

## 基本目標Ⅳ 活動を支える基盤づくり

- 各種福祉団体、施設、地域包括支援センター、行政、社協が連携しながら、地域福祉の活動を推進しよう！
- 地域の情報を発信することで、福祉の関心を高めよう！

子どもから高齢者まで様々な年代に応じて自治会域や地域で地域福祉活動（居場所づくり、見守り活動、暮らしの支いあい活動など）が推進されています。今後もさらに各種福祉団体、施設、専門職が協同することによって、さらに充実した地域福祉活動が推進されるとともに、各福祉団体が推進されている福祉活動に住民みんなが関心を持つてもらえることが重要となってきます。

### ■ 推進する活動

- ・ 各種福祉団体、施設、地域包括支援センター、行政、社協が連携した基盤づくり
- ・ 広報誌「神田通信力」の発行



## 第2期浅井地区福祉活動計画

### 基本理念

**あんしんし いきいきくらす まちづくり**

### 第1期計画の振り返り

浅井地区では、浅井に住み続けたいと思える福祉のまちづくりを目指し、「安心しいきいきくらすまちづくり」を基本理念に、「安心して暮らせるまちづくり」、「いきいきと活動できる人づくり」、「いきいきと活動できる地域づくり」を基本目標に取り組みを進めてきました。

旧集落と新興住宅地が混在していますが、多くの自治会で過疎化や少子高齢化が進んでおり、近所関係の希薄化も緩やかに進んでいる現状のなか、命のバトンの設置や見守り郵便の送付等、地域のみんなで見守る仕組みづくりと、地域住民が集う居場所として、サロン活動や転倒予防教室などに取り組み住民のつながりづくりが推進されています。取り組みの推進や各種団体との懇談会のなかで、買い物や通院などの移動手段に関する困りごとや支えあい活動の担い手不足などの課題も見えてきました。

## 基本目標

## 基本目標Ⅰ あんしんな暮らしの仕組みづくり

ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯、しょうがい者等の支援を必要とされる方の増加により、「ひとり暮らしで持病もあるが、息子が近くにいないため、近所で頼れる人がいてほしい」等の生活の不安に対する声が多く聞かれています。命のバトンの設置による見守り活動をはじめ、そっと互いを見守りあう関係、困ったときに頼ることができる人が近くにいることが安心につながります。住民みんなで、地域や安心できる暮らしについて考える機会を作り、支えあうことができる地域を目指し、自治会単位の見守り活動を推進します。

地区内では、各種団体やボランティア団体等による各々の強みを活かした取り組みが活発に取り組まれています。各地区、団体によって目指すものや課題が異なる点がありますが、浅井地区の住民の暮らしや世代別また世代間の交流など目的が共通する取り組みもあります。情報交換会の開催にて各々各種団体それぞれがお互いの活動を知り情報共有することにより、互いの活動のさらなる充実と、連携や協働による取り組み強化や活動団体の基盤強化を目指します。

## ■地域の人みなで見守りあおう

防災福祉マップの作製・命のバトン事業・見守り郵便事業・友愛訪問事業

## ■各種団体と情報共有し連携を深めよう

自治会、地域づくり協議会、民生委員・児童委員協議会、商工会議所、子ども会、小中学校、老人クラブ、日赤奉仕団  
長浜市浅井ボランティア連絡協議会、キャラバンメイトお市

## 基本目標Ⅱ いきいきと活動できる人づくり

浅井地区内には、サロン活動など住民によるボランティアの取り組みにより積極的に活動が進められています。地域の支えあい活動において、支えたり支えられたり気楽なお互い様の関係が必要です。みんなですらすら地域のために、いつまでも健康で暮らすために、生きがいを創るために、できることについてみんなで話し合い、実行できる地域が求められています。子どもから高齢者まですべての住民のボランティア活動への参画を得ることで、活動の広がりや活動をとおして世代を超えたつながりができます。

子どもから高齢者まで幅広い世代が取り組むことができるのが、ボランティア活動の良さであり、住民一人ひとりの活動が地域の支えあい活動の基盤となります。活動団体へは各団体の思いや目標達成のため、活動資金の助成や活動の紹介、各地区の取り組みへの参画等をとおして更なる活動充実をめざします。加えて興味関心の高い方だけではなく、住民みんなのボランティア活動への参加意識や意欲を高めるとともに、みんなが知識と関心をもち、できることをできる範囲で取り組むボランティアの新規活動者の育成をします。

### ■ これからの浅井を担う人を育てよう

協力員活動の充実、三世代交流事業

- ・ ボランティア活動を活性化しよう  
ジュニアボランティアの育成、ボランティア団体との連携・活動支援
- ・ 高齢者の理解を深めよう  
見守り支えあい活動者の育成、サロン活動者の育成

### 基本目標Ⅲ あたたかい心がかようまちづくり

浅井地区内でも少子高齢化の影響から「小学校の統合により近くの学校が閉校になり子どもたちの元気な声が聞こえずさみしい」、「80歳になり、足腰が弱ってきて友人宅に行けずおしゃべりする機会が減った」など子どもから高齢者までふれあいやつながりが希薄化したことによる不安の声が聞こえています。

子どもころから地域の大人との関わりや子ども同士の交流をとおして地域の中で学び育つことで、地域への愛着が生まれ、体験活動や交流により住民同士のつながりが深まります。現在、浅井地区内でも自治会単位のサロン活動や地区域のサロン、各小学校区単位の居場所づくりなど対象やテーマを多様に設け取り組みが進められています。自治会単位及び地区域を対象とする居場所づくりの活動を応援し、地域で安心して暮らすための信頼できる気楽な関係づくりと世代を超えたつながりづくりを進めます。

しょうがいや認知症など理解を深める取り組みが進められていますが、浅井地区内においても地域で共に生きるための取り組みが進められています。地域で誰もが参画しやすい活動づくりや交流の機会づくり、日ごろの関わりや知識を深める研修会への参加による住民の意識向上が求められています。みんながいくつになっても住みたい場所で役割をもって暮らすことを選ぶことができる地域を目指します。

### ■ 高齢者・しょうがい者をみんなで支えよう

しょうがい者交流事業、あざいおたのしみサロン

- ・ 子育てしやすいまちにしよう  
親子ふれあい事業
- ・ 地域住民が集う居場所をつくろう  
小地域サロン推進事業



## 第2期びわ地区福祉活動計画

### 基本理念

～「わ」になって活動するまち びわ～ be わ

### 第1期計画の振り返り

びわ地区では2015年にびわ地区住民福祉活動計画を策定し、進捗状況や、今後必要な取り組みについて協議してきました。「～“わ”になって活動するまち びわ～be わ」をスローガンに3つの基本目標「地域づくりの環」「人づくりの和」「仕組みづくりの輪」に沿ってさまざまな活動をすすめる中で重点的なポイントが見えてきました。

◆地域のなかで交流する場が充実し、高齢者を見守る体制づくりが行われています

地域の居場所（サロン活動や転倒予防教室等）が住民同士のつながりをつくる場となっており、各自治会において19サロン、9転倒予防教室が実施されています。住民同士が気軽につどい交流できる場づくりや、ひとり暮らし高齢者のつどいや民生委員児童委員による友愛訪問事業をとおして、高齢者を見守る体制づくりが促進されています。

## 基本目標

## 基本目標Ⅰ 地域づくりの環

- 気楽に寄れる“居場所”を広めよう
- 誰もが話しやすい地域にしよう

「こんなこと、他の人には頼めないな」「困っているけど、どこに相談すれば良いのかわからない」と、悩みや困りごとを外に出しにくい傾向があります。そのような状態を防ぐため、気軽にSOSを発信し、また発信されたSOSを住民みんなでキャッチし、「困った」と言える地域づくりを目指します。

## ■ 推進する活動

- ・ 小地域サロン推進事業
- ・ 転倒予防教室等支援事業
- ・ 福祉委員会等活動支援事業
- ・ 介護者サロン事業
- ・ ひとり暮らし高齢者のつどい
- ・ 浅井びわ湖姫地域包括支援センターとの連携

## 基本目標Ⅱ 人づくりの和

- “おたがいさま”で見守り支えあう地域をつくろう
- 地域活動の“次世代の担い手”を育てよう

地域福祉研修会やサロンボランティア交流会の開催、各自治会で取り組まれている福祉委員会への支援等、若者から高齢者まで様々な年代が地域の福祉に関心を持てるような取組みが推進されてきました。

そのようななか、ひとり暮らし高齢者や子育て世代等、あたたかなまなざしで見守り支えあうことの重要性への気づきが生まれました。

若者や退職者世代の活動者を支援・育成し、多世代における地域福祉活動者を増やすことで、きめ細やかに支えあい、地域の福祉に関心を持てる人づくりを目指します。

## ■ 推進する活動

- ・ しょうがい者施設訪問
- ・ ひとり暮らし高齢者のつどい
- ・ 友愛訪問
- ・ 小地域サロン推進事業
- ・ 福祉委員等支援事業
- ・ 家族ふれあい事業
- ・ 次世代育成支援事業
- ・ 退職者世代の力を活かした活動
- ・ ボランティア活動支援事業

## 基本目標Ⅲ 仕組みづくりの輪

- 誰もが住み慣れた地域で、いつまでもイキイキと暮らそう
- 活動の地盤を固めよう
- みんなが思いを発信・共有できる場をつくろう

サロン活動や友愛訪問等を支援することで、ふれあいの場や機会がつけられる仕組みづくり支援に、積極的に取り組んできました。今後は、これらの仕組みがさらに効果的に広がるよう、地域福祉に関する関係機関との連携を深め、住民一人ひとりの参加と連携が取れる仕組みづくりと、活動の地盤固めを行います。

## ■推進する活動

- ・「命のバトン」の推進、体制整備
- ・広報啓発事業
- ・活動計画推進委員会の開催
- ・地域福祉研修の開催
- ・他団体と連携、情報共有する調整会議の開催
- ・退職者世代の力を活かす仕組みづくり



## 第2期虎姫地区福祉活動計画

### 基本理念

**レッツ虎意！もちつ もたれつ おたがいさんのおつきあい**

### 第1期計画の振り返り

虎姫地区においては、2016年に「虎姫地区おたがいさん活動計画」を策定し、地区の特性に合わせたきめ細やかな地域福祉活動を推進してきました。

しかしながら、この間にも虎姫地区では、少子高齢化の進行や地域活動の後継者不足といった大きな課題があり、子どもから高齢者等の様々な世代に対し、地域活動への興味・関心を高めていく活動が重要となります。特に、退職者世代を中心に活動参画を促すことで、次世代の担い手を発掘していくことが大切になります。

#### ■感じあえる・響きあえるは～とらんど（居場所）づくりの活動

子育て交流（おもちゃ図書館）、当事者交流（介護者茶話会）、趣味・世代交流の場等の開催により、虎姫地区の住民が気楽につどい交流できる居場所をつくりました。は～とらんど（居場所）による交流と外出の機会づくり、趣味活動をとおした生きがいつくりの促進に取り組み、また、主には～とらんど事業においては地域ニーズに応え、住民により親しんでもらえる活動展開が望まれています。

#### ■災害にも強いネットワークづくり活動

地域づくり協議会と連携し、研修会、交流会をとおして防災・減災活動を中心とした地域組織のネットワーク化をすすめており、参加団体を中心に、災害時だけでなく日頃からの地域福祉活動や見守り活動への関心が高まっています。

#### ■おたがいさまの声が聞こえる地域づくり活動

各自治会で活動しているサロンをはじめ、各種福祉団体の支援をとおして、ふれあいと交流のある待ちづくりに取り組みました。サロンボランティア交流会の開催、ボランティア活動団体の輪や活動の場の充実を図り、いきいきと活動できるように支援しています。虎姫地区内の様々なイベント参加・協力による地域ふれあいつくりに取り組みすることで、身近な地域での活動が展開、活性化できるよう支援しています。

## 基本目標

## 基本目標Ⅰ 感じあえる・響きあえるは～とらんど（居場所）づくり

## ■カフェスペースの充実

会場にスタッフが常駐する等、雰囲気づくりを行い新しい企画の計画を行う。

## ■は～とらんど活動の後継者を見つける

退職者世代を対象に特技を持つ人に声掛けをする。

## ■生きがいくくり講座等、様々な年代の人が集まり交流できるような企画を計画する

## ■PRの方法の検討

## ■推進する活動

- ・は～とらんど 毎週月・水曜日開催

内容：歌声喫茶、介護者茶話会、認知症講座、料理教室（三枚おろし、そば打ち等）、包丁研ぎ、生きがいくくり講座（野菜・果物の育て方、コーヒー淹れ方）、子ども企画（クラフト講座、水生生物観察会）、おもちゃ図書館（おやつづくり協力）

## 基本目標Ⅱ 災害にも強いネットワーク

## ■関係者が参加しやすいような開催日時を検討する。

## ■勉強会の目的や内容を広げる。

- ・参加対象を広げる
- ・行政や専門家との連携
- ・虎姫地区に置き換えた、災害時のシュミレーションを行う
- ・災害時決まっていることの確認（避難場所等）

## ■避難支援見守り支えあい制度、命のバトンの促進と活用への支援

## ■推進する活動

- ・災害支援ネットワーク

## 基本目標Ⅲ おたがいさまの声が聞こえる地域づくり

## ■地域のイベントに積極的に参加できているので、次年度も継続する

## ■虎姫地区内のサロン交流を盛んにする

## ■推進する活動

- ・フェスタ in 虎御前（模擬店運営）
- ・虎姫ボランティアふれあい祭り（虎姫地区ボランティア連絡協議会と協力）
- ・各福祉施設のイベント支援
- ・虎姫地区サロンボランティア交流会
- ・サロン助成
- ・団体助成

## 基本目標Ⅳ 支えあいにつながる地域づくり

虎姫福祉の会運営委員会において各種団体、専門職等と検討会を開催する。多様化する困りごとに対し地域で話し合い、個別の問題から全体の問題探しの場としていく。

### ■ 推進する活動

- ・ 暮らしの支えあい検討会の実施



## 第2期湖北地区地域福祉活動計画

### 基本理念

### 小谷山から琵琶湖まで福祉のロードでつなぐ湖北

### 第1期計画の振り返り

湖北地区では2016年に湖北地区福祉活動計画を策定し、進捗状況や、今後必要な取り組みについて協議してきました。「小谷山から琵琶湖まで福祉のロードでつなぐ湖北」をスローガンに3つの基本目標「声かけあう地域づくり」「支えあう人づくり」「お互いさんの仕組みづくり」に沿ってさまざまな活動をすすめてきました。

高齢者世帯・ひとり暮らし高齢者を対象とした事業に対して、参加者が増加するなど地域でのつながりづくりを進めることができました。各自治会で実施されているサロンもそれぞれの特徴を活かした取り組みをされています。

見守り活動については、地域での見守りや地域の課題について自治会でも考えていくことが求められており、福祉委員の推進や、湖北地区全体で命のバトンが取り込まれるなど、見守り活動の推進がされています。

話し合いを続けていくなか、改めて「結の精神」に立ち返り、見守り活動を進めていくことが大切だと感じました。「結いの精神」の中には、お互いの関係に上下がなく自然と持ちつ持たれつの関係が日常生活の中に息づいてきました。

今後はさらに住民同士の気軽な関わりをつなげていくことで、根付いてきた「結いの精神」を活かした支えあい・見守りを進めていきます。

**基本目標**

## 基本目標Ⅰ 「おいでやす」の居場所づくり

- 身近な地域の居場所づくりを推進します
- 元気で暮らすための居場所づくりを推進します
- 趣味や特技を活かした居場所づくりを推進します

湖北地区では、26自治会でサロン活動、10自治会で転倒予防教室、高時川河川敷ではグラウンドゴルフに積極的に取り組まれています。また、趣味をとおした活動はまちづくりセンターや地域での取り組みが行われています。

このように「おいでやす」の気持ちで地域での住民同士の気軽な関わりをつなげ、すべての人が自分らしく元気に生きがいをもって生活するための居場所づくりを進めます。また健康づくりについても周知活動による推進を図っていきます。

**■ 推進する活動**

- ・ サロン活動支援（サロンスタッフ交流会、近隣サロン交流会の開催支援）
- ・ 活動内容等を広報により周知し活動をPR
- ・ 生きがいづくり活動の推進

## 基本目標Ⅱ 「来とくれやす」の交流と参画

- つながりを広げる交流と参画を推進します

湖北地区では「来とくれやす」という言葉があるように、気軽に集い、多世代が交流する機会を大切にするこゝで、住民同士の交流とふれあいを促進し、地域の絆を深めます。

また、ひとり暮らし高齢者の増加や子どもの数が減少する地域もありますが、住民同士の交流を増やし、楽しみを感じられるような取り組みを進めます。

**■ 推進する活動**

- ・ お楽しみさわやか交流会（ひとり暮らし高齢者のつどい）
- ・ しょうがい児余暇支援事業サマースクール・クリスマス会
- ・ 世代間交流の推進

### 基本目標Ⅲ 「おせんどさん」で支えあい

#### ■身近な暮らしの困りごとを、解決できる住民活動を支援します

地域の神社仏閣の行事ごとや労働奉仕作業等が集まると、「おせんどさん…で」とお互いに声をかけ合うことで、出役事の役目や労働について支え合うことの意識をねぎらってきました。暮らしの中でつながりを活かした支えあい活動について取り組みを支援します。

#### ■推進する活動

- ・ 情報収集・提供による活動支援
- ・ 福祉懇談会の実施

### 基本目標Ⅳ 「お互いさん」の見守り

#### ■地域での見守り活動を推進します

常日頃からの地域の人との関係づくりを深め、非常時に備えておくことが重要になってきます。住民同士が支えあえる関係をつくり、日頃から助け合い、見守り合う、お互いさんの関係でつなぐ見守り活動を推進します。

また、各種団体との連携を深めていくことで、自治会内での見守りができるよう取り組みます。

#### ■推進する活動

- ・ 福祉委員の設置に向けた活動支援
- ・ 非常時や日頃からの見守り等の意識啓発を行う  
(歳末友愛訪問事業、命のバトンの推進、子どもと一緒に危険箇所の確認等)

## 基本目標Ⅴ 「おきばりやす」の基盤づくり

### ■福祉活動団体のネットワーク、協働体制を強化します

地域の住民が田畑で作業しているとき、「おきばりやす」と声をかけることで労力に対して【ねぎらい】と【応援】をします。

このように、地域でのさまざまな活動が行われているなかで、各種団体が連携することで、活動の基盤をしっかりとつくることを目指します。また地域での活動を周知・啓発することで住民へ情報を伝えます。

### ■推進する活動

- ・ 広報紙の発行
- ・ 各団体との連携強化



## 第2期高月地区住民福祉活動計画

### 基本理念

### ほのぼのとした“わ”でひろがるまち高月

### 第1期計画の振り返り

第1期高月地区住民福祉活動計画では、高月地区の地域福祉の推進を目指し、地域づくり協議会や老人クラブ連合会と連携しながら、様々な活動に取り組んで来ました。

また毎年度、地区内の福祉活動団体や専門職による福祉懇談会を開催し、地区の現状や課題について話しあいました。

その中で浮き彫りになってきた現状を踏まえて、地域福祉活動推進に向けた取り組みを進めてきましたが、取り組む中で次のようなことが見えてきました。

◆高月地区は店舗や生活関連施設が比較的整っていて、車に乗れば不便なく暮らせる地域です。しかし、高齢になると家族の支援や介護サービスを必要とされる人が大半であり特にひとり暮らしや高齢者世帯の方はゴミ出しが難しい、買い物に行きたいが交通手段がないので困るといった声も多くあります。また高齢化が進み、今は地域の担い手として活躍しているが10年20年後に、次の世代にこの活動をどうつなげていくかが大きな課題です。

住民の居場所づくり（サロン活動）が33自治会の中で30サロン活動され充実していますが、すべての自治会や地域で取り組んでいけるような仕組みづくりも必要です。

また、見守り活動では、防災福祉マップを活用した自治会内での見守り活動が行われています。災害時避難支援見守り支えあい制度や命のバトンを活用した自治会での見守り活動により多くの自治会で取り組めるような支援が必要です。

今後は地域に住む人々の「普段の暮らしのしあわせ」がより身近に感じられる地域福祉活動の取り組みが必要です。

## 基本目標

## 基本目標Ⅰ みんなではぐくむ人づくりの話

「ともに支えあい、ともに頑張りあえる人づくり」を目指し、地域の活性化につながる人づくりや若者世代や退職者世代とコミュニケーションを深めることを目的に下記の活動に取り組みます。

## ■推進する活動

- ・認定こども園児への本の読み聞かせ
- ・高月地区ボランティア連絡協議会の協力を得て、ボランティア活動を推進
- ・サロンスタッフ講習会の開催
- ・福祉推進員の委嘱と研修会の開催
- ・認知症の啓発・地域サポーターの養成
- ・福祉推進員の委嘱と研修会の開催
- ・小中学校への福祉活動推進補助金の交付
- ・認定こども園、小、中学校への本の配布
- ・地域づくり協議会、老人クラブ連合会、高月地区社会福祉協議会の連携

## 基本目標Ⅱ みんなにやさしい地域づくりの和

「ほんのささやかな見守りで安心して暮らせる地域づくり」、「いつまでも笑顔あふれ、みんなが交流できる地域づくり」、「交流とふれあいの地域づくり」を目指し、下記の活動に取り組みます。

## ■推進する活動

- ・しょうがい児クリスマスサンタ訪問の実施
- ・しょうがい児・者との交流支援
- ・高月認定こども園園児とのつどいの実施
- ・健康ウォーキングの実施
- ・お出かけサロンの実施
- ・花見のつどいの実施
- ・サロン活動の推進
- ・地域カフェの開催
- ・飛出し注意看板助成、ストップマークの配布
- ・ほのぼの給食サービスの実施
- ・見守り支えあい活動の推進
- ・見守り会議の実施（命のバトンや防災福祉マップの取り組み）
- ・自治会福祉推進活動助成金交付
- ・子育てサークルへの助成金の交付及び支援

### 基本目標Ⅲ みんなをつなげるしくみづくりの輪

「みんなが助けあい、ともに協力しあえる仕組みづくり」を目指し、人と地域がともに育つ仕組みや高月の”いま“を伝える、各種団体が連携できる仕組みを目的に下記の活動に取り組みます。

#### ■ 推進する活動

- ・ 福祉のつどいの開催
- ・ 健康と安心な暮らしの研修会の開催
- ・ 高齢者サロンと子育てサークルの交流推進
- ・ 日常生活見守り支えあい活動の実施
- ・ 福祉懇談会の開催
- ・ 広報啓発活動の実施
- ・ 団体間の連絡調整会議の開催
- ・ 次世代ボランティアの育成



## 第2期木之本地区福祉活動計画

### 基本理念

### 地域の絆 安心して暮らしやすい 木之本

### 第1期計画の振り返り

第1期の木之本地域住民福祉活動計画を「地域の絆 安心して暮らしやすい 木之本」という基本理念のもと活動してきました。3年間の進捗管理の中で、これまでの課題に合わせて、新たな課題や取り組みの成果などが見えてきました。

#### 課題

- ・自治会役員や消防等担い手不足
- ・災害時も考えた見守り体制を考える必要がある
- ・福祉委員と自治会、民生委員の連携が必要
- ・福祉委員の役割が明確になっていない
- ・ちょっとした生活の中での困りごとが頼めない
- ・買い物や通院等外出に困っておられる
- ・ひとり暮らし高齢者（特に男性）が多くなってきた

#### 成果

- ・福祉のつどいではみんなが「福祉とは何か」「自分ができることは何か」を考えるきっかけになった
- ・サロンの参加者は少しずつ増えている。広域サロン（町内会や自治会合同）もできている
- ・年に1回でも自治会長（町内会長）、民生児童委員、福祉委員が話し合える場ができたのは良かった

#### 展望

- ・学区ごとにサポーターの育成（『生活支援ボランティア』の立ち上げ）
- ・男性の参加者を増やそう
- ・若い人を取り込んでいこう
- ・自治会（町内会）と連携した見守り活動の展開
- ・企業やNPOとの連携
- ・あいさつ運動に取り組もう
- ・命のバトンの更新作業を通じた定期的な見守り活動を進めよう
- ・災害時も考えた見守り体制を考えていこう
- ・福祉委員の役割を明確にし、研修会などを開催していこう

- ・自治会、民生委員、福祉委員が話し合える場を継続しよう
- ・空き家などを活用した居場所づくり
- ・つながりが深まるような機会づくり
- ・趣味や特技を生かした場所での高齢者の活躍の場所づくり
- ・昼間家にいる人たちに活躍してもらえよう見守り体制づくり
- ・見守り活動（防災福祉マップや命のバトン）の推進

## 基本目標

### 基本目標Ⅰ めくもりの感じられる地域福祉の担い手づくり

各自治会、連合自治会、地域づくり協議会をはじめ、各種関係団体や民間企業、NPOと連携し、若い人を巻き込んだ交流の機会や住民同士のつながりが深まるような取り組みを進めます。

- 既存団体の健全な運営を応援します。
  - 関係団体の活動を支援します
  - 新たな活動の推進と協力者の育成に取り組みます
- ・サポーター募集
  - ・ちびっこ広場の開催
  - ・こども食堂のひろがり
  - ・福祉関係団体への活動支援
  - ・新生活支援ボランティアの立ち上げ
  - ・新企業・NPOとの連携

## 基本目標Ⅱ みんながいつまでも安心して暮らせる地域づくり

ひとり暮らし高齢者の方や介護をしている家族等の交流の場の開催のほか、子どもの健やかな成長を応援できる地域づくりに取り組み、みんながいつまでも安心して暮らせる地域づくりを進めます。

- 住民同士が気楽に話せる関係づくりを進めます
- つながりを広げる交流と参画を推進します
- つながりを深めあう居場所づくりを推進します

- ・あいさつ運動の推進
- ・サロン活動支援
- ・貸出備品の充実
- ・ひとり暮らし高齢者のつどい
- ・介護者のつどい
- ・新男性の居場所づくり
- ・新高齢者の生きがいづくり
- ・新空き家の活用

## 基本目標Ⅲ 支え合い助けあう地域づくり

自治会と連携し、災害時も想定した地域の支えあい体制の構築が求められています。福祉委員の役割を明確にし、自治会の中で役員、民生委員、福祉委員が連携し、ふれあいや交流をひろげるための支援や活動に取り組み、支えあい助け合う地域づくりを進めます。

- 自治会、連合自治会、地域づくり協議会等と協力し、地域の自主防災活動が進めていけるよう支援します
- 自治会ごとの見守り活動を進めます
- 福祉委員活動を充実します
- 認知症の理解を深めます

- ・お楽しみ弁当の配食
- ・命のバトンの取り組み推進
- ・福祉委員活動の充実
- ・寒中見舞い
- ・自治会ごとの見守り活動
- ・防災福祉マップの取り組み
- ・新支えあい体制の構築

#### 基本目標Ⅳ 人と人をつなぎ地域からの声を活かすしくみづくり

自治会、連合自治会、地域づくり協議会、民生委員児童委員協議会、福祉委員などと協力して、地域の結びつきが強くなるよう、話し合いを通じて、人と人のつながりが深まるようなしくみづくりを進めます。

- 福祉の会の運営を明確にします
- 福祉の会の活動の見直しと広報活動を充実します
- 自治会や民生委員児童委員協議会、地域づくり協議会等と連携し地域での見守り活動や支えあい活動を進めていけるよう、研修会や懇談会等開催します

- ・『福祉きのもと』の発刊
- ・チャリティーバザーの開催
- ・福祉懇談会の開催
- ・他地域の福祉団体との交流研修
- ・自治会との連携



## 第2期余呉地区地域福祉活動計画

### 基本理念

### 結いの心で支えあうまちづくり

### 第1期計画の振り返り

第1期余呉地区地域福祉活動計画策定にあたり、サロン関係者との住民懇談会や各種団体との意見交換会でいただいた課題、意見等を踏まえ、また以前から取り組んでいる活動を再点検し、余呉地域の福祉活動計画を進めてきました。具体的には全24の取り組みを3点の基本目標に振り分け、3部会を構成し分担しました。個々には改善や課題もあるが多くの成果も出ています。その中で地域サロンは目標の全地域での開催ができました。継続していくには、無理せず、柔軟に地域の実情に合わせた活動を促進するとともに担い手、後継者の育成が望まれます。次に転倒予防教室は、介護予防、健康づくりへの効果が見込まれるものの、取り組みはまだ7割程度で今後は全地域での取り組みや栄養指導を取り入れる等内容の充実が必要です。

また近年大きな風・水・雪害や地震等の自然災害が多発しており、日頃からの防災・見守り意識の高揚を図ることが求められています。このため安心安全な地域づくりを進めるうえで、取り組みが遅れている防災福祉マップ・命のバトンを推進します。合わせて地区福祉委員の充実した活動の取り組みも必要となります。

今回、第2期余呉地区地域福祉活動計画策定に向け4会場による自治会各種関係者との福祉懇談会を実施してきました。いただいた貴重な意見、要望と策定委員会での協議からこれまでの活動の改善工夫を行い、住民参加と自治会等の協力理解を得ながら新たに地域での世代間交流、介護者の居場所づくり、社会的弱者への支援、サロンへの助成金等広くきめ細かい地域福祉活動を展開していかなければなりません。

## 基本目標

### 基本目標Ⅰ 日頃からの支えあいたすけあいの地域づくり

健康で自立を育む活動、気軽に相談でき、たすけあう環境づくり、誰もが気軽に参加できる交流の機会づくりをめざし、下記の活動に取り組みます。

#### ■推進する活動

- ・健康づくり講演会
- ・親子ふれあい活動
- ・さわやか老人のつどい
- ・小地域サロン活動の推進
- ・しょうがい者団体活動支援
- ・介護予防事業推進
- ・ワークキャンプ活動支援
- ・子育て支援活動
- ・元気かい活動支援
- ・サロン活動助成金支援
- ・ほっこり茶屋（居場所づくり）の運営参画
- ・ひとり暮らし、高齢者、しょうがい児・者及び高齢者世帯への支援

### 基本目標Ⅱ 笑顔と会話のはずむ人づくり

福祉活動を担う人材の育成支援、世代・環境を超えた活動支援、気軽に参加できる活動・場所づくりをめざし、下記の活動に取り組みます。

#### ■推進する活動

- ・福祉出前料理教室
- ・移住者交流会
- ・社会福祉大会への参加
- ・委員研修（先進地研修）
- ・介護者の居場所づくり
- ・しょうがい児・者に関する支援
- ・福祉懇談会の開催
- ・サロンボランティア研修会
- ・地区福祉委員研修会
- ・余呉・姫里子ども会交流事業への参加・支援

### 基本目標Ⅲ 連携と参加の仕組みづくり

福祉団体同士の連携強化、防災・見守り意識を高めて、安心安全な地域づくり、みんなが参加できる情報発信の仕組みづくり、自治会内での福祉連携体制づくりをめざし、下記の活動に取り組みます。

#### ■ 推進する活動

- ・ 福祉団体・自治会との協働・連携
- ・ 地域世代間交流食堂の開催
- ・ 防災福祉マップの推進
- ・ 見守り活動の推進（避難支援見守り支えあい制度の登録・命のバトンの推進）
- ・ 防災研修会の開催
- ・ 広報の発行



## 第2期西浅井地区地域福祉活動計画

### 基本理念

### 「住民みんなが主役」～ふくしのまちづくり西浅井～

#### 第1期計画の振り返り

西浅井地区では2016年に西浅井地区福祉活動計画を策定し、進捗状況や、今後必要な取り組みについて協議してきました。「住民みんなが主役～ふくしのまちづくり西浅井～」をスローガンに3つの基本目標「支えあい安心して暮せる地域づくり」「個性豊かに活躍する人づくり」「安心のネットワークの仕組みづくり」に沿ってさまざまな活動を進めてきました。

西浅井地区には夏祭りとして3つの祭りがあるなど、西浅井地区全体の交流の機会により世代を越えた住民同士のつながりが深まっています。サロンは18自治会で開催され、多くの自治会で身近な地域での交流がされています。このような地域での交流の場を大切にしながら、気軽に集える居場所づくりを進めていきます。

支えあいの活動団体が設立され、買い物支援をはじめとした生活支援が行われています。自治会においても見守り活動に取り組む自治会が増えるなど、少しずつ見守りに対する意識向上があり、支えあい安心して暮せる地域づくりが進められています。今後も安心して暮せる地域づくりの推進として、見守りについて話し合う機会を大切に、情報を共有することで“みんなで見守っていく”ことができる体制を目指していきます。

これまで活動への参加者からは「サロン活動は顔がわかる関係になるので、参加者の体調等の変化について気づく場になっています」「毎年楽しみに参加しています。また次回参加できるように元気でいたいです」といった声がありました。

今後の西浅井の「**ふ**だんの **く**らしの **し**あわせ」をたくさんの方が感じられるよう取り組みを進めます。

## 基本目標

## 基本目標Ⅰ 交流を深める

## ■住民同士のつながりが深まるように交流と参画を推進しましょう

西浅井地区では、各種団体による活動や趣味の活動への参加が精力的に取り組まれており、活動を通じた交流の機会が持たれています。2017年の長浜市の高齢者実態調査によると、地域でのボランティアグループへ「月1回以上」参加する割合が21.1%、自治会活動への参加が「月1回以上」と回答した割合が18.8%と市内でもっとも高い地区であることがわかります。定期的に自治会活動に参加し、交流の機会を持つ人が多いことがわかります。

今後西浅井地区では、このような交流の機会や住民同士のつながりが深まるような取り組みを進めていきます。

## ■推進する活動

- ・すべての住民が交流できる機会づくり（にしあざい縁日等など）
- ・高齢者が参加し、交流を深めることができる機会づくり（敬老のつどい、サロン活動など）
- ・ひとり暮らし高齢者を対象としたつどい（ひとり暮らし高齢者のつどい）
- ・子どもが交流できる機会づくり（放課後・長期休み児童クラブ、子育て広場など）

## 基本目標Ⅱ 居場所づくり

## ■身近な地域の居場所づくりを推進しましょう

## ■趣味や特技を活かした居場所づくりを推進しましょう

## ■気軽な居場所づくりを推進しましょう

サロン活動や転倒予防教室の取り組みが各自治会でされています。また、ヨガや大正琴といった趣味の活動も取り組まれており、このような地域での趣味を通じた居場所や、自治会といった身近な場所での活動がされています。特に、サロン活動は20自治会のうち18自治会で取り組まれており、身近な活動として、参加者の楽しみとなっています。そのため、今後も活動を継続できるように支援していきます。

また、西浅井地区診療所の拠点化により、西浅井支所への住民の往来が増加することが見込まれます。そのため、今後は支所やまちづくりセンターを活用した、住民が気軽に立ち寄れる居場所づくりを推進します。

## ■推進する活動

- ・サロン活動支援（おでかけサロンやサロンボランティア交流会など）
- ・趣味や特技を活かした活動（ふれあい料理教室など）
- ・まちづくりセンターでの地域カフェの取り組み

### 基本目標Ⅲ 見守り・支えあい活動

- 防災福祉マップや命のバトンを活用した見守り体制をつくりましょう
- 各種団体と連携した活動を展開しましょう

子どもの見守り活動としてスクールガードの見守りがあります。また地域では一人暮らし高齢者や高齢者世帯が増加しています。自治会での要配慮者に対する見守り活動等の取り組みを進めていくことで、子どもから高齢者まで安心して生活できるように、自治会を単位とした見守り活動を推進します。

#### ■推進する活動

- ・防災福祉マップや命のバトンの取り組み支援
- ・各団体との連携（スマイルサポート西浅井への活動支援、スクールガード支援など）

